

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月15日

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2010～2012

課題番号：22251003

研究課題名（和文） 東南アジア大陸部における宗教の越境現象に関する研究

研究課題名（英文）

Comparative Study on Mainland Southeast Asian Religions in Border-crossing

研究代表者

片岡 樹（KATAOKA TATSUKI）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：10513517

研究成果の概要（和文）：

東南アジア大陸部における宗教の越境現象というのは、必ずしも近年のグローバル化に特有の現象ではない。国家、民族、宗教をまたいだ越境というのは、前近代においては今以上に活発かつ柔軟に行われていた。そうした越境をせき止めたのが近代国家による国境線の画定、民族集団の認知、宗教の制度化である。冷戦以後の東南アジア大陸部で顕在化している宗教の越境現象は、そうした近代国家による囲い込みを与件とし、そのなかで失われつつある世界を部分的に取り戻す試みとすることができる。

研究成果の概要（英文）：

It is widely misunderstood that border-crossing religious movements in Mainland Southeast Asia are by no means a new phenomenon affected by globalization in recent years. Crossing borders of states, ethnic groups and religions were much more flourishing in pre-modern days. It was modern states which stopped this trend by demarcation of state boundaries, official recognition of ethnic groups as well as introduction of state regulation on religions. In this light, recent resurgence of border-crossing religions in Mainland Southeast Asia in the post-Cold War period can be seen as reactions to compartmentalization of states, ethnic groups and religions, and partial redemption of the lost communities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	9,900,000	2,970,000	12,870,000
2011年度	9,800,000	2,940,000	12,740,000
2012年度	6,600,000	1,980,000	8,580,000
年度			
年度			
総計	26,300,000	7,890,000	34,190,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：

キーワード：宗教・東南アジア・中国・民族・越境・国家

1. 研究開始当初の背景

近年の東南アジア大陸部においては、大メコン圏開発構想など、政治、経済面での国境を越えた交流が盛んに論じられており、また

国境の両側に住む同一民族の往来再開や、合法・非合法労働者の越境移動なども注目されているが、それに比して宗教など精神文化の越境現象については研究がやや出遅れている

る感がある。

東南アジア大陸部の宗教については、特定の民族集団と特定の宗教との結びつきを自明視する形で議論が進められてきた。そこから生じた固定観念が、現実の東南アジア社会の動態に接近することを妨げている面がある。

東南アジア大陸部の宗教論においては、平地仏教徒社会と山地社会と華僑華人社会（およびベトナム社会）とがそれぞれ没交渉に研究を行ってきた面がある。こうした研究者の役割分担が研究面での固定観念をさらに助長してきた。

2. 研究の目的

東南アジア大陸部の越境論や宗教論に関する以上の問題点をふまえ、本研究では同地域の宗教の越境現象について、「国境線を越える」「民族境界を越える」「宗教の境界線を越える」という三つの次元に着目することで、現代東南アジア社会の動態を明らかにするとともに、国家単位とは異なる新たな地域像を提示することを目的とする。また、東南アジアの宗教の動態における多様性と柔軟性の研究を通じ、近代国家のもとで自明視されてきた国家、民族、宗教というカテゴリーそれ自体を疑い直すことへの貢献も企図している。

3. 研究の方法

本共同研究は、共通の課題についてメンバー各自に役割分担を振り当て、それぞれが独自に調査を行った成果を討論し集約するという方法をとる。学際的な共同研究であるため、個々の調査で用いる方法論についても役割分担を行う。本共同研究は大きく分けて文化人類学者と歴史学者によって構成される。文化人類学者は宗教施設や信者への聞き取りと参与観察、歴史学者は宗教施設や現地図書館等での文献収集を主たる手段とする。それぞれの調査対象国において歴史学、文化人類学双方の観点からの調査をメンバーの役割分担によって行う。

4. 研究成果

共同研究の成果として、東南アジア大陸部諸国においては、宗教の越境現象に関し共通するパターンが多く見いだされることが明らかになった。それはたとえば次のような点である。

宗教の越境現象はポスト冷戦期の国境開放以降の時代に特有の現象であるかのように一般的には理解されているが、冷戦期にも冷戦期特有の宗教の越境現象が見られた。たとえばベトナムの南北分断は、北から南への人々の移住の波を生み出し、中国の国共内戦の余波は、内戦の敗者たちが東南アジア諸国

へと押し出されるという帰結をもたらした。そうした過程が国境を越えて民族分布図を書き改めていく中で、宗教もまた国境や民族境界を越えてきたのである。

東南アジア大陸部において、中国人（華僑華人）、ベトナム人、タイ人ビルマ人などの平地上座仏教徒、山地民などは、それぞれが固有の宗教パターンをもって住み分けしているとみなされてきたが、実際には宗教活動そのものがそうした住み分けの枠を崩してきた側面がある。東南アジア大陸部の各地で見いだされるのは、中国宗教のベトナム人への伝播、タイ語系民族の中国廟や大乘系寺院への参拝、山地民のあいだで信奉される上座仏教など、従来の固定観念をはるかに越えて柔軟に宗教の場を共有する人々の姿である。

宗教の越境を媒介する存在として各地に共通するのは、カリスマ僧やカリスマ予言者の役割である。彼らはしばしば、宗教的信念のみにもとづいて、制度宗教の枠や民族ごとの住み分けや国家の規制に対し無頓着に行動するため、結果的にダイナミックな宗教の越境現象を惹起しうる。またこの種のカリスマは、ベトナム・カンボジア国境やタイ・ビルマ国境周辺など、国家や規制教団の統制が及びにくく、国境をまたいで雑多な諸民族が混在する地域において発生しやすい傾向があり、このことがさらにカリスマ指導者を結節点とした宗教の越境現象をさかんに行っている。

宗教の越境現象は近年のグローバル化が生み出した特殊現代的な現象であるかのように思われがちであるが、実際には国境線や民族境界や宗教カテゴリーが近代国家によって線引きされる以前の方が、人々は国家、民族、宗教の境界を柔軟に往来していた。それをせき止めたのが近代国家である。

国境線、民族集団、宗教カテゴリーの国家による囲い込みは、一方で新たな宗教現象をももたらしている。従来は自明であった越境の回路が閉ざされることで、その代償作用が求められるためである。ミャンマーの少数民族仏教徒たちが民族単位で行う経典の文字化運動や、焼畑移住を禁じられた山地民たちが創出する常設の宗教施設などがそうした例にあたる。また近代国家によるこうした囲い込みの効果は、それぞれの民族が同じ宗教を共有する集団として自己を確立しなければならぬという思い込みを伴うため、たとえばカンボジアのイスラム教徒のように、雑多な出自の人々によって構成されていたムスリム集団が、あたかも民族であるかのように扱われるという副産物をも生み出している。

総じて言えば、現代の越境現象というのは、近代国家によっていったん越境がせき止められてしまったことを大前提としていると

いう意味で、前近代の越境現象とは本質的に異なっている。今日われわれが東南アジアで目にする宗教の越境現象というのは、(国家であれ民族であれ宗教であれ)境界線の存在を与件としたうえで、それを部分的に乗り越えることで、かつて存在した共同体をわずかながら取り戻すための試みといえることができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 42 件)

①片岡 樹、宮沢千尋、玉置充子、他、『東南アジア大陸部における宗教の越境現象に関する研究、(課題番号:22251003)平成22年度~24年度 科学研究費補助金基盤研究(A) 研究報告書、査読無、2013、187(総ページ)

②片岡 樹、先住民か不法入国労働者か-タイ山地民をめぐる議論が映し出す新たなタイ社会像-、東南アジア研究、50(2)巻、査読有、2013、239-272

③片岡 樹、Religion as Non-religion:The Place of Chinese Temples in Phuket,Southern Thailand、Southeast Asian Studies、1(3)巻、査読有、2012、461-485

〔学会発表〕(計 49 件)

①片岡 樹、Theodicy of Inter-ethnic Relations: Christianity among the Lahu along the Yunnan-Southeast Asian Peripheries、2013 Annual Conference of the Association for Asian Studies、2013年3月20日-3月26日、Grand Hyatt Hotel, San Diego (アメリカ)

②吉本 康子、『公定のムスリム』とイスラーム的宗教実践-ベトナム中南部チャム・パニの社会における『クルアーン』、日本文化人類学会第46回研究大会、2012年6月23日-6月24日、広島大学(広島県)朗読

③速水洋子、Regionalism from the Perspective of Cross-border Migrants: the Myanmar-Thai Border Case、Asian Studies Association of Australia Conference、2012年7月11日-7月13日、University of Western Sydney (オーストラリア)

〔図書〕(計 26 件)

①小林 知:立川武蔵編、アジアの仏教と神々、2012、325

②林 行夫、Phutthasatsana choeng patibat khong thai isan: Satsnanai khwampen phumiphak、チュラーロンコーン大学出版局、2011、478

③片岡 樹、風響社、東アジアにおける宗教文化の再構築、2010、488

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

片岡 樹 (KATAOKA TATSUKI)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号:10513517

(2)研究分担者

宮沢 千尋 (MIYAZAWA CHIHIRO)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号:20319289

長谷 千代子 (NAGATANI CHIYOKO)

九州大学・比較社会文化研究科(研究院)・講師

研究者番号:20450207

小林 知 (KOBAYASHI SATORU)

京都大学・東南アジア研究所・助教

研究者番号:20452287

武内 房司 (TAKEUCHI FUSAJI)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号:30179618

中西 裕二 (NAKANISHI YUJI)

日本女子大学・人間社会学部・教授

研究者番号:50237327

村上忠良 (MURAKAMI TADAYOSHI)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・准教授

研究者番号：50334016

吉本 康子 (YOSHIMOTO YASUKO)

国立民族学博物館・民族社会研究部・研究員

研究者番号：50535789

林 行夫 (HAYASHI YUKIO)

京都大学・地域研究統合情報センター・教授

研究者番号：60208634

速水 洋子 (HAYAMI YOKO)

京都大学・東南アジア研究所・教授

研究者番号：60283660

芹澤 知広 (SERIZAWA SATOHIRO)

奈良大学・社会学部・教授

研究者番号：60299162

吉野 晃 (YOSHINO AKIRA)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：60230786

(3)連携研究者

なし